

英語

【解答】

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	a	b	d
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	b	a	c	d
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	d	c	c
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	d	c	c
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	a	d	a	b
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	c	b	d	a	c
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	c	a	b	a

【学習アドバイス】

2025 年度の入試問題は、2024 年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 文脈判断による適語補充問題、Ⅲ.・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問 6 題構成であった。全問マークシート形式の選択問題で、提示された科目の中から 2 科目を選択し 100 分で解答する形式である。よって、解答時間の目安は 50 分程度となり、この時間を考慮に入れても、受験生が無理なく解答できる難易度と問題数で構成されている。

解答の際にやや高い語彙レベルや複雑な解釈を要する設問もあるが、概ね難易度は大学入試標準レベルである。高校で学ぶべき単語・熟語、文法・語法は全て確実に習得しておき、学校の課題や問題集も細かく演習、復習する土台を作っておくことが望ましい。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

Ⅰ. 会話問題では、教科書レベルの口語表現や文脈判断に基づき、二者間の意思疎通を完成させる問題が設けられている。基礎的な日常表現や会話ならではのあいまいな返答の仕方などを踏まえ、二者の意志疎通とその流れを妨げないように考えることが大切である。perhaps などのあいまいな返答のポイントや、英語特有の省略を用いた発話の処理の仕方などを考慮に入れて演習を重ねておくとなお良い。

Ⅱ. 適語補充問題は 1～3 文で構成され、2 行以上にまたがる文章内に設けられた空所に入れるべき適切な語を選択する形式である。この設問で用意されている表現には、多少難度の高いものあり、文法上少々複雑な文もあるので、基礎～入試標準レベルの単語や表現の習得と、地道な英文解釈の訓練を積んでおくことが望ましい。余裕があれば、単語や熟語を覚えるときに、似たような表現の違いも確認しておくことさらに良い。

Ⅲ.・Ⅳ. 長文読解問題は、概ね入試標準レベルの表現を用いたやや短めの文章が題材として選ばれており、題名によって文章のテーマがわかるので、文章の内容を推測する手助けになる。設問では、同意表現選択問題、適語補充問題、文挿入問題、内容理解問題、内容一致問題などが出題されており、難度の高い語には語注が付されている。同意表現選択問題では、類似表現の知識だけでなく、適切な文法運用の能力を問うものもあるので、周辺の丁寧な解釈と併せてそれらも考慮しよう。適語補充問題は、同意表現選択問題と同様に、表現の知識を土台とし、解釈と文法を併せて考慮することで、スムーズに正解を導くことができるだろう。内容理解問題は、問題となっている表現の前後を読み解くことでも正解を導くことができるが、指定表現の詳しい説明部分やまとめの部分を探しながら読解しておくことさらに良い。内容一致問題に関して、先に文章を読む場合には、段落ごとに「内容」「説明のポイント」などを文章横にメモしておくこと良い。選択肢を先に読んでおく場合には、選択肢の正誤判断で役に立ちそうな情報にしるしをつけつつ読み進めると、都度選択肢の正誤をスムーズに判断できる。

Ⅴ. 文法・語法問題は、高校までで習得すべきことで作問されており、授業内容をきちんと身につけていれば正解できるものばかりである。しかしながら、非常に基礎的ではあるが、うっかり忘れていたりする事項もあるので、中学で学習事項も含めた総復習を徹底したい。

Ⅵ. 整序英作文問題では和文が与えられているので、比較的解答しやすい。多くが教科書や問題演習の副教材などでよく見かけるポイントを問うており、高校までに学習すべき英語の文法や特徴と表現を習得し、地道に問題を演習しておくことが大切である。

総じて、高校までの授業や課題を丁寧に学習し習得しておくことは必須であることがわかる。中学の学習事項など基礎的なものから総復習を始め、基礎を徹底的に固めてから、入試基礎～標準レベルの問題集や演習を行うよう計画し、コツコツと対策を進めていこう。